

# ミナミメダカ

(ダツ目メダカ科) *Oryzias latipes* (Temminck and Schlegel, 1846)



従来は「メダカ」という名前で人々に親しまれていました。2012年に兵庫県以北の日本海側に分布する個体群が新種(和名:キタノメダカ)として記載され、キタノメダカとミナミメダカ(上記の分布以外の個体群)に分けて呼ばれるようになりました。日本固有種であり、環境省レッドリストにおいて、絶滅危惧II類として扱われています。

(動物研究部 中江雅典)

※発見場所：水生植物区 (つくばね橋、あずまや付近)  
中央広場の小池

※分布：太平洋側の平野部河川、池沼、水田、用水路、  
塩性湿地など

# ゲンゴロウブナ

(コイ目コイ科) *Carassius cuvieri* Temminck and Schlegel, 1846



池などの中層に群れを作って、遊泳しながらプランクトンなどの微小な生物を食べて生活します。  
飼育型は「ヘラブナ」と呼ばれ、日本全国に移植・放流されて繁殖している国内外来種(本来は存在しなかった地域で繁殖している種)です。 (動物研究部 中江雅典)

※発見場所：水生植物区

※分布：河川の下流(流れが緩やかな場所)、池沼、湖、ダム湖の表・中層、自然分布域は琵琶湖・淀川水系のみ。

# ギンブナ

(コイ目コイ科) *Carassius* sp.



雑食性で、底生動物や藻類を主に食べて生活します。メスの数がオスよりもとても多く、メスだけの遺伝子を受け継ぐ次世代(つまりクローン)をつくる種としても知られています。 (動物研究部 中江雅典)

※発見場所：水生植物区

※分布：河川の下流（流れが緩やかな場所）、池沼、日本全域に分布する。

# ドジョウ

(コイ目ドジョウ科) *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor, 1842)



古くから食用として、人々に親しまれていました。空気呼吸ができる種としても知られています。

近年では、食用として外国から持ち込まれたカラドジョウ *Paramisgurnus dabryanus*も茨城県に定着しています。

(動物研究部 中江雅典)

※発見場所：砂礫地植物区（山地性）の池  
砂礫地植物区（海岸性）の湿地

※分布：北海道～琉球列島の平野部の浅い池沼、小溝、  
流れのない用水の泥底や砂泥底の中などに生息する。

# ヨシノボリ属の一種

(スズキ目ハゼ科)

*Rhinogobius* sp.



ゴリやヨシノボリとして、古くから人々に親しまれてきました。以前は「トウヨシノボリ」と呼ばれていましたが、現在、ヨシノボリ類は分類学的に混乱しています。よって、今回はヨシノボリ属の一種として扱っています。  
(動物研究部 中江雅典)

※発見場所：水生植物区（東側、あずまや付近）  
※分布：不明

# コイ

(コイ目コイ科) *Cyprinus carpio* Linnaeus, 1758



雑食性であり、底生動物を中心とする餌を食べて生活しています。琵琶湖などに分布する日本在来の別種と考えられている「ノゴイ」とは別のグループです。環境適応能力が高く、水路や池沼、河川など様々な場所に生息しています。  
(動物研究部 中江雅典)

※発見場所：水生植物区、中央広場の小池

※分布：日本全国の河川の中・下流域、池沼、ダム湖

※なお、写真は植物園以外の場所で撮影されたものです。